

課題名	「ゆめのか」拡大による次世代につなぐいちご産地づくり	振興局名	県北振興局
活動対象	JAながさき西海いちご部会	実施期間	平成28年度
<p>【対象の概要】</p> <p>佐世保市、平戸市、松浦市、佐々町のいちご生産者で構成されるいちご生産部会。農家戸数91人（うち認定農業者数74人）。いちご栽培面積は15.76ha。</p> <p>【課題設定の背景】</p> <p>いちごの高収性品種「ゆめのか」は大玉で連続出蕾性があり、高収量が見込める品種で、「ゆめのか」を導入することで収量が向上して所得向上につながる。導入推進の結果、県北地域での平成27年度栽培面積は11.1haまで広がった。</p> <p>1. 「ゆめのか」のさらなる導入のためには、収量増加により不足すると予想されるパック詰めの手力支援や栽培管理の省力化技術の導入が必要である。</p> <p>2. 「ゆめのか」の栽培上の課題を解決する技術確立と普及が必要である。</p> <p>【活動目標】</p> <p>1. 労力支援システムやコスト縮減技術等の導入支援により、いちご収量増加に対応できる産地づくりを支援する。</p> <p>2. 「ゆめのか」で高収量を確保できる栽培技術の確立、複合環境制御技術の確立支援により収益性向上を目指す。</p> <p>【関係機関との連携（活動体制・役割分担）】</p> <p>いちご担当者会を開催し、活動に対し関係機関と協議を行った。</p> <p>1. 労力支援：市町・JA・振興局</p> <p>2. 事業掘り起し：振興局・JA、事業実施支援：市町</p> <p>3. 栽培技術支援：JA・技術普及班・振興局</p>			
<p>【活動経過】（活動体制、指導・支援の経過と手法等）</p> <p>（1）パッケージセンター導入支援</p> <p>ア 平戸地区では、平成28年産の継続実施に向けたアンケート調査を実施し、利用農家の手取り向上を図るため取扱い規格の内容を検討した。その結果、単価が高い出荷形態ソフトパックについても取り組む計画を立てた。</p> <p>イ 佐世保地区で試験運用を開始することを部会及び農協と協議した。また、運営収支シミュレーションを実施し、目標の選果量や作業員の確保を検討するとともに、部会員に対し、利用意向を調査した。</p> <p>（2）省力化施設導入支援</p> <p>ア 補助事業を活用した高設栽培システムの導入に対し、計画書作成支援を行った。導入後は栽培管理等の指導を現地検討会・個別巡回で行った。</p> <p>イ 管内の自動換気施設導入者に対し、使用方法や生産・出荷状況の聞き取り調査及び分析をJAと実施した。その結果を農振協野菜部会で検討し、部会へ紹介した。</p> <p>（3）ゆめのか栽培対策支援</p> <p>「ゆめのか」の栽培支援として、年間の栽培にあわせた定期的な指導支援を実施した。</p> <p>（4）複合環境制御技術確立支援</p> <p>ア 技術普及班と連携し、複合環境制御技術の確立に向けて、環境モニタリング装置を活用している篤農家圃場で展示圃を設置した。月2回調査を行った。</p> <p>イ 測定装置を活用し、若手いちご生産者のハウス内環境測定を行い、改善指導を行った（写真2）。</p>			

写真 1:

県北若手いちご塾



写真 2



普及活動の成果

様式6 (右)

#### 【普及活動の成果】

##### (1) パッケージセンター (PC) 導入支援

ア 平戸地区では2月下旬より運用開始予定。利用希望者は前年よりも増加した (前年比133%)。

イ 佐世保地区では3~4月に運用開始予定

##### (2) 省力化施設導入支援

ア 高設栽培システムの導入: 4戸、44a (未来を創る園芸産地支援事業)

イ 次年度以降の自動換気施設の導入要望: 佐世保市7戸、平戸8戸、松浦2戸

##### (3) ゆめのか栽培対策支援

28年産ゆめのか作付面積: 12.4ha (前年比11.1ha)、作付割合87%(前年72%)

##### (4) 複合環境制御技術確立支援

いちご生産者4名のハウス内環境データを測定し、改善指導を行った。

#### 【対象の声】

現地検討会に加えて、単収の底上げが必要な部会員への個別巡回の強化をお願いしたい (佐世保いちご部会長)。

新しい情報を提供してもらい満足している。今後も、こまめな指導をお願いしたい。ベンチの新規栽培者がいるので重点的な指導を行って欲しい (平戸いちご部会長)。

#### 【今後の課題】

##### (1) パッケージセンター導入支援

ア 平戸地区においては、2月下旬から運用する予定である (昨年3月中旬)。利用農家の手取り向上を図るため、単価が高いソフトパックへの取組みも実施する予定。また、例年5月の連休前後に収穫を終了する農家が多いので、所得向上に向けてパッケージセンターを利用することにより6月まで収穫を継続することを推進する。

イ 佐世保地区においては、再度意向調査を行い、利用農家の把握を行う。部会OBやいちご集荷所のパート職員、近隣幼稚園の保護者等に募集をかけて作業員を確保する。

##### (2) 省力化施設導入支援

ア 高設栽培導入者への支援を引き続き行っていく

イ 次年度の自動換気施設の導入に向けて、計画的な事業の推進を図る。

##### (3) ゆめのか栽培対策支援

「ゆめのか」にあわせた栽培管理指導支援を行っていくとともに、ハウス内環境を測定したデータをもとに、炭酸ガス発生装置や自動換気装置の導入推進を行い、収量向上を図る。

##### (4) 複合環境制御技術確立支援

ア 環境制御装置 (自動換気、炭酸ガス発生装置等) を導入済みまたは導入を希望している生産者でのハウス内環境測定を行っていく。そのために、計画的な調査スケジュールの作成が必須。

イ 来年度事業「オランダ型施設園芸技術導入推進事業」において、県北地域では「いちご」生産者を中心にした複合環境制御に関する勉強会の立ち上げおよびその活動を支援する。

#### 【成果の活用及び普及活動上の留意点】

(1) いちごパッケージセンターについては、定着に向け支援していく必要がある。

(2) 新規高設栽培導入者向けの講習会や個別指導を行っていく。

(3) 新規就農者への就農支援、栽培管理指導をJA指導員と連携してやっていく。

